

校内別室における生徒に合わせた支援と 生徒同士のきずなの形成

不登校生徒の状況

対象生徒は小学校低学年から不登校で、学校生活に対してやる気が出ない等の相談や、友人関係の問題についての相談があった。行事に参加して、教室への復帰を目指している。

具体的な取組

○一人1台端末で地理学習

一人1台端末のすごろくゲームを用いて、日本各地の名産品を学習した。学習シートを用いて取り組むようにしている。鉄道について詳しい当該生徒の興味・関心が他の生徒にも伝わり、「生徒同士で学び合う時間」となった。当該生徒は鉄道が好きなこともあり、継続して学習を行うことができた。

○様々な職員との関わり

栄養教諭が当該生徒に声をかけ、牛乳パックで工作をして校内に展示をした。また、国語の教員免許をもつ校内別室指導支援員は、当該生徒の興味や習熟度に合わせた漢字のプリントを準備することで取り組むことができるようにした。SCは、将棋を通して当該生徒と関わるようにした。

○生徒同士でのきずな形成

校内別室を利用する生徒同士で学習やコミュニケーションゲームを行い、給食を一緒に食べるようにした。校内別室指導支援員も生徒同士で過ごす時間を見守るようにした。互いの良いところを認め合い、生徒同士のきずなが形成されていくようになった。

○校内別室の環境整備

フロアマットを新調した。また、テーブルで生徒たちが一緒に学習し、給食を食べ、ソファで休憩やコミュニケーションをとるなど、活動内容に応じた環境整備を行った。



成果

校内別室の開室日の増加により、当該生徒の登校頻度の増加が見られた。校内別室で過ごす他の利用生徒と楽しく過ごすことが増えるとともに、登校が増え、教室に復帰することができるようになった。

課題

引き続き、行事や特定の授業への参加の機会を捉え、学級とのつながりを得られるようにしていく。統一した支援が行えるよう、支援員間の情報共有の方法を検討していく。